

題名 化学療法抵抗性乳癌への新規治療法の開発

臨床遺伝子治療学・准教授・谷山義明

概要

乳癌は女性に発生する癌で最も頻度の高い癌であり、治療法はある程度確立されているものの薬剤耐性の乳癌が存在し大変大きな問題となっている。一方、上皮間葉転換（EMT）は癌細胞の未分化性を高め、他臓器転移を誘導することが報告され、近年化学療法抵抗性乳癌の有力な原因の1つと考えられている。

そこで、我々は悪性腫瘍の臨床サンプルから構成される Cancer Cell Line Encyclopedia (N=1036) を用いて、SNAIL1/2 や ZEB1 などの 8 つの EMT マーカーと相関する遺伝子を網羅的に解析したところ POSTN 遺伝子が最も強く相関することを見出した。そこで、標的受容体のないトリプルネガティブ乳癌症例 (N=580) での POSTN の発現の程度にて 2 群に分けたところ $P=0.0095$ にて予後と POSTN 遺伝子の発現に密接な関係があることを確認した。